

松下幸之助「自主責任経営」と「社員稼業」

パナソニックグループは、三洋電機とパナソニック電工を含めたグループ全体で事業を大きく再編し、本年1月から新しい事業体制をスタートさせました。心新たに全社員が一丸となり、社業に邁進すべく取り組んでいます。

厳しい経営環境に立ち向かっていくためには、社員一人ひとりが、自主的に熱意を持って創意と能力を発揮していかなければなりません。

松下幸之助は、1933年に、会社を製品別に分け、開発から生産、販売、収支の管理までを一貫して担当する独立採算の「事業部制」を導入し、自主責任経営を徹底してきました。この精神は、ドメイン制になった現在も脈々と引き継がれています。

そして、この自主責任経営を個人の仕事にあてはめたのが「社員稼業」という考え方です。幸之助は、社員に対し絶えず、「自分は“社員稼業という一つの独立経営体の主人公であり、経営者である」という心意気で仕事に取り組み、ものを見、判断してほしいと訴えてきました。それは、自分自身の体験を通じて、「人間は、自ら自主的に責任感をもって事に当たり、創意工夫を発揮して取り組む時に、やりがいを感じ、大きな成果をあげる」と感じていたからです。

この特別展では、幸之助の「自主責任経営」と「社員稼業」に対する考え方を、幸之助自身の言葉やエピソードで展示しています。皆様方が、それぞれの立場で、自主責任経営と社員稼業を実践し、自らの能力を最大限に発揮して新たに飛躍される一助になれば幸いに存じます。

松下幸之助歴史館